

インターネット自動車で日常生活をサポート! 日産「カーウイングス」は生活お助け機能が中心

「テレマティクス」という言葉をご存知だろうか? 日本では主に自動車をインターネット端末にしてしまう仕組みのことを指して言うのだが、自動車を“どのような”インターネット端末にするかという点では、自動車メーカーの向いている方向がそれぞれちがっている。たとえば、他の自動車メーカーに先駆けて、インターネット端末になった自動車「マーチ」を発売した、日産自動車の場合はどうだろう。日産の「テレマティクス」サービスの名前は「カーウイングス」。実は、「カーウイン

グス」に対応した車の第1弾が「マーチ」だったという点に、すでに日産の戦略が現れている。マーチといえば、女の子や主婦が乗る車というイメージがあるが、その人たちが必要とするのは詳しいナビではなく、携帯メールやレストラン情報のような機能であろうという視点から、ナビ機能はオプションで「レストランを探す」「メールを受信する」といった機能が標準装備となっている。つまり、マーチについたiモードのようなインターネット端末になっていると言えるのだ。



マーチ用の専用ユニットはラジオと同じ程度の大きさ。ユーザーが購入しやすいように、5万円で提供されている。画面が小さく、しっかりカーナビとして使うことは難しいが、まるで携帯電話のように情報を集めることができる。

日本初のテレマティクス対応自動車は今年2月に発売された日産マーチだ。



現在、WILL CYPHAのみ対応だが、将来的にはさらに多くの車種に対応モデルにする予定。

対するトヨタが「G-BOOK」と名付けた「テレマティクス」サービスで行おうとしているのは、車に搭載されたカーナビをPCやPDAとまったく同じものにしてしまおうという戦略だ。もちろんほかのメーカーのサービス同様インターネットに接続して、近くの駐車場やレストランを検索することもできるのだが、もっとも力を入れているのは画像、映像、音声といったエンターテインメントコンテンツを、PCなどで楽しむのと同じような形で、車の中でも楽しめるようにするという点だ。

そのため、すでにコンテンツプロバイダー約50社と契約していて、たとえばレストラン情報ひとつをとっても、検索したレストランのオススメ料理などが画像で紹介されるなど、まるでPCで見るレストランガイドのように表示される。これは他のメーカーの「テレマティクス」サービスでは行われていないことだ。そもそも、トヨタには「G-BOOK」はカーナビの延長”という考えはないようだ。むしろ、車もPCの延長として捉え、独自の「テレマティクス」サービスを展開している。

なんか車がスゴイらしい
イマドキのITカー
PCよりも
インターネットに

インターネット接続

リアルタイムタウン情報



G-BOOKの専用端末の見た目はカーナビ。ただし、自宅のパソコンのような感覚で使える。クルマを情報基地として活用したい人向けのサービス。

車内でも家と同じようにコンテンツを楽しめる!
助手席の人がいちばん嬉しい! トヨタの「G-BOOK」

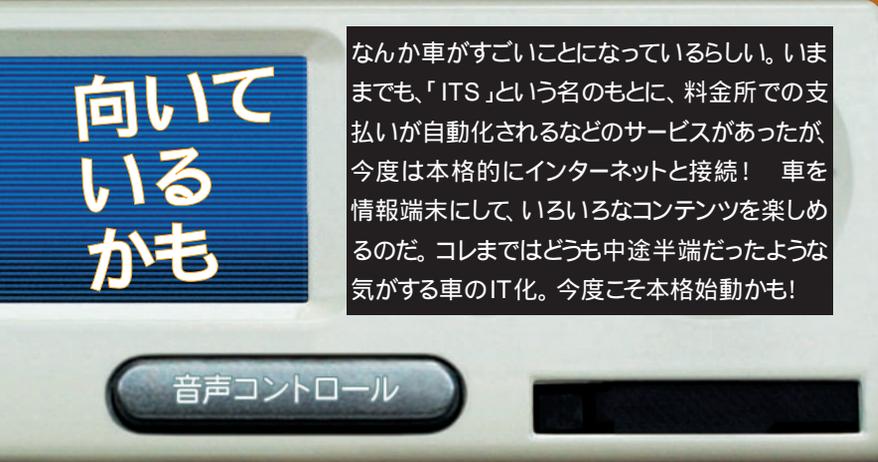
長距離ドライブもラクラクに! 進化したカーナビ、ホンダ「インターナビ」



アコードに搭載された専用端末。従来のDVDカーナビと、見かけ上の大きな違いはない。ただ、情報の豊富さや使い勝手のよさは大きく上回っている。

ホンダの「テレマティクス」サービス「インターナビ・プレミアムクラブ」は、車を情報端末にすることで、カーナビ本来の機能“ルートナビゲーション”をさらに進化させるという戦略をもっている。したがって、トヨタが提供するようなエンターテインメント情報は、ほとんどといっていいほど存在せず、いかにナビゲーションを便利にするかという点に特化して開発された「テレマティクス」サービスと「インターナビ」のナビゲーションシステムの

なかで中心になるのが「新・道路交通情報」だ。これまで都道府県単位だったVICSからの情報をホンダが集約、加工してインターネット経由で各車の端末に配信することで、広域の詳しい道路交通情報を提供するものでDVDなどで提供される地図もインターネットを使って常に新しい情報に更新されていき、「地図に載っていたスタンド、潰れてるジャン!」なんてこともなくなるのだ。このようにホンダの目指す「テレマティクス」サービスはあくまでカーナビの延長なのだ。



なんか車がすごいことになっているらしい。いまでも、「ITS」という名のもとに、料金所での支払いが自動化されるなどのサービスがあったが、今度は本格的にインターネットと接続! 車を情報端末にして、いろいろなコンテンツを楽しめるのだ。これまではどうも中途半端だったような気がする車のIT化。今度こそ本格始動かも!

10月4日発売の新型アコード、アコードワゴンから、サービス提供が開始される。



MINIに接続した「iPaqポケットPC」。GPSナビゲーションのほか、MP3ファイルの再生などができるようになっている。日本での発表は未定。



ほかにも車載用のテレマティクス端末は次々に発表されているぞ。

パイオニアの「Air Navi」は、カーナビとネットワークを融合した製品。ユニット自体にCDMA2000 1xを利用した通信機能を持たせて、情報センターとの間で通信を行うことにより、地図情報の自動更新、メールの送受信などができる仕組みだ。専用のリモコンで後部座席からの操作も可能にしている。熱狂的なファンを持つローバー「MINI」も、ヨーロッパのユーザーに向けて新たな車載

情報システムを発表した。コンパクト(HP)のPDA「iPaqポケットPC」をカーナビと接続する仕組みで、カーナビの制御、各種情報のダウンロードなどができる。

このようにクルマの新しい情報通信の仕組みが次々に登場し始めている。インパネにキーボードを組み込んだり、フロントウィンドウに有機ELを使って情報を表示する……などの仕組みも実用化に向けて検討されている。車とネット……コピキタスの世界が徐々に身近になりつつある。



パイオニアのAir Navi。カーナビに、インターネットへの接続機能を追加。地図情報の自動更新、道路交通情報の分析と表示など、運転に役立つ機能が豊富。

カーナビ、PDAも参戦 さまざまな方向から完成させる車のインターネット接続

日産のITカーに乗ってみました!

「カーウィングス」 近くの駐車場がすぐに

見つかるのだ!

なかなか操作しやすい

のりて
みました



必要なサービスだけを抽出

今回は、原稿執筆時点で利用可能だった日産「カーウィングス」対応のピックアップ、エルグランドに試乗してみた。

エルグランド版「カーウィングス」端末は、先に紹介したマーチのものとは違って、大き目のモニターを装備した、DVDカーナビ(タイトル横の写真)タイプで、ナビゲーションシステムをゴリゴリ使う人も意識した作りになっている。

エンジンをかけて最初に試してみたのは「ドライブルートアシスト」機能。目的地を設定すればルートを図上に表示して、音声で「この先100メートル手を右です」といった感じでナビゲートしてくれるものだ。これだけならば、普通のカーナビとなんら変わらないが、試乗したエルグランドは筆者の携帯電話を接続することでインターネットにアクセスできるようになっているのだ。つまり、インターネット経由で日産のサーバー(ドライブルートアシスト・センターと呼ばれる)にアクセスし、これまで個々のカーナビで行っていた経路計算をサーバー側で行い、エルグランドはその結果をダウンロードしただけなのである。もちろん新しいガソリンスタンドなどの最新情報もサーバーからダウンロードしてくれるので、エルグランドが表示する地図には常に「今現在」の情報が載っている。

今回は右のエルグランドの写真を撮るために、東京東銀座の日産自動車本社から、広い駐車場があるであろうと想像した豊洲方面にルートを設定。「ドライブルートアシスト」にしたがって、いざ豊洲へ!



今回試乗したのは、日産エルグランド。V6-3500ccの「VQ35D」エンジンを搭載したパワー感のある走りを楽しめる。オートスライドドアを用意するなど、使い勝手も上々。カーウィングス対応DVDカーナビは約20万円～50万円。

www.nissan.co.jp/ELGRAND/

DVDカーナビ機能が付いているために、モニターはかなり大きめで見やすい。2画面構成にもなるため、テレビを見ながら最新ニュースを表示することもできるのだ。搭載しているOSは日産独自のもの。



液晶画面の下にあるボタンを使い、カーウィングスのサービスを利用する。数多くのサービスそれぞれを、少ないボタン操作で使えるようになっている。

「カーウィングス」のサービスを利用するためには、入会金2,000円、年会費3,600円を払う必要がある。そのほか「ドライブルートアシスト機能」を追加すると、さらに年会費5,400円、月額利用料500円が必要だ。

地図上の目的地設定やメニュー選択が行える操作スティック。決定ボタンとしての機能も持つ。カーソルの移動速度を自由に決められないので、慣れるまでに時間が必要。

「とにかく近くの駐車場」はイイ!

撮影用の駐車場を探しに豊洲まで遙々来たものの.....ない、駐車場がない! ということで、またもや「カーウイングス」に頼ることに。まず、モニターの下にある「情報」ボタンを押すと、「カーウイングス」で使える項目の一覧を表示することができる。ここで頻繁に使うのは「AUTO DJ」という項目だ。先に使った「ドライブルートアシスト」では目的地までの経路情報をダウンロードしてきたが、「AUTO DJ」では最新ニュースや、天気などをインターネット経由で、日産の情報センターから入手できるのだ。ほかに「とにかく近くの駐車場」という項目があり、これを使えば、GPSで得た自分の車の現在地情報を情報センターに送り、その近くの駐車場データをインターネット経由でダウンロードできる。

早速「とにかく近くの駐車場」を選択して、駐車場情報をダウンロードしてくると...、「近くの駐車場は6件です」とエルブランドが喋ってくれた。その駐車場が広いのかどうかまでの情報がなかったのは残念だが、一覧を読み終え、モニターを地図の表示に切り替えると、なんと地図上にいままでなかった「P」のマークが多数表れていた。ダウンロードしてきた駐車場情報が地図と連携しているのだが、まるで自分で地図に情報を書き込んでいるような感覚だ。

チャンネルが“車生活”をヘルプ

さて、その「P」マークを目指し、名前から広そうな駐車場のあたりをつけて、走り出した。するとしばらくして撮影に打って付けの場所が表れ無事撮影開始! 今度は目的地を日産自動車の本社に設定して、帰路に付いたのである。

もちろん、「カーウイングス」の項目は、ここで紹介したモノだけではなく、現在地の近くのレストランの一覧をインターネット経由で情報センターからダウンロードしてくる「とにかく近くのレストラン」など多数の項目がある。これらの項目は「カーウイングス」では「チャンネル」と呼ばれていて、自分がよく使う「チャンネル」だけを集

1



サイドブレーキ脇にあるケーブルに、手持ちの携帯電話を接続する。これで、ネットワークへの接続ができるようになる。もちろん、ハンズフリーでの通話も可能だ。

3

「AUTO DJ」では、現在の天気、ニュースなど、インターネットを使ってリアルタイムに情報をゲットすることができた。



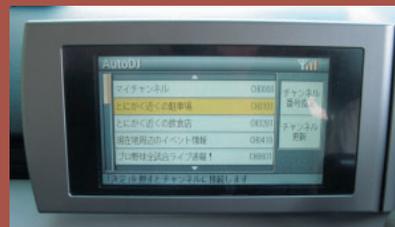
5

ダウンロード時間は、おおむね1分以内には完了。運転していれば気にならない時間だった。



2

ユニットのスティックボタンを使って、チャンネルを選ぶ。運転しながらの操作は禁物。駐車場など、止まっているときに操作しよう。



4

Auto DJのメニュー画面。「マイチャンネル」を先頭に、ドライブに役立つ各種の情報が選べるようになっている。

6

ダウンロードした情報は、メモリーに保存して、液晶パネルの地図上に表示するスタイル。「自分だけの地図」を作る感覚だ。



何といても便利なのがハンドルに取り付けられたスイッチ。押しながら声でナビを操作できる。



マーチなどの車種に用意されている、1ラジオサイズのカーウイングス用ユニットは、地図情報などを16MBのメモリーカード(CFタイプ)に収録してある。

トヨタのカーナビはパソコンの延長 「G-BOOK」は 車のためだけに作られた サービスではない！

通信モジュール内蔵がキモ



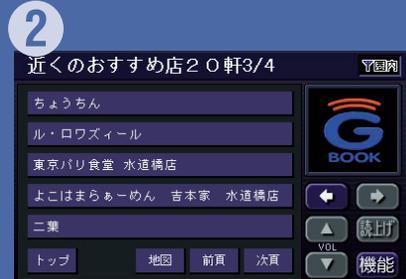
車も情報端末のひとつ

10月21日に初めての対応車種「WILL CYPHA」が発表されたトヨタの「G-BOOK」は、極論すれば自動車向けのサービスではない。このサービスの使い方としては、「ウィンドウズCE for Automotive」を搭載したカーナビに、専用の通信モジュールを備え付け、インターネット経由で「GAZOOメディアサービス」にアクセスし、ニュースやタウン情報といったコンテンツをカーナビで楽しむというもの。しかし、ここにあるコンテンツは特にカーナビ向けに作られているというわけではない

トヨタは「G-BOOK」開発用に、「G-BOOK-ML」という言語を用意しているが、これを使えば、コンテンツプロバイダーがカーナビでの表示用、パソコンのブラウザでの表示用、ケータイ、PDAなどの表示用と、コンテンツを別々に開発する必要は

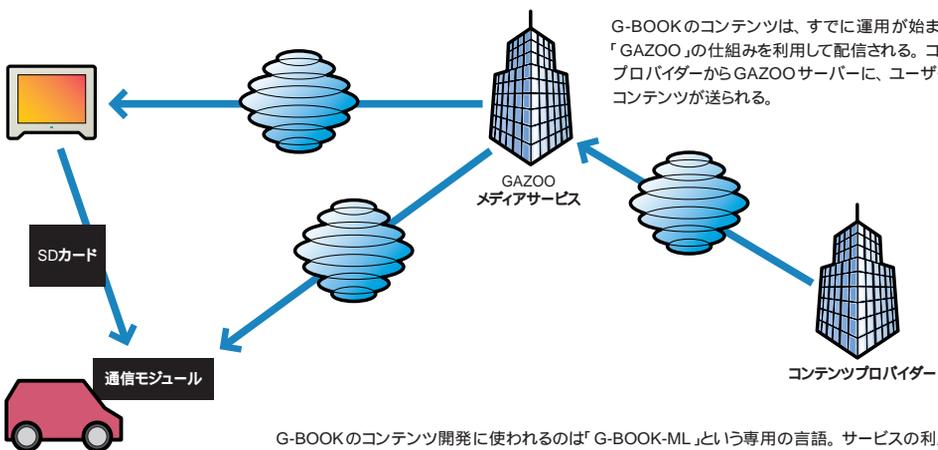
なくなる。また、ユーザーは車のカーナビ画面でも、パソコンのブラウザからでも、同じコンテンツをそれぞれに最適化された形で見ることができるのだ。

そのほか、カーナビには256MバイトのSDメモリーカードがささるのだが、これをつかえばコンビニなどに置かれた情報端末「G-TOWER」で、音楽や映画のデータを購入して、車の中で楽しめる。G-BOOKはまさにPCとインターネットでできることをすべて車の中に持ち込もうとしているのだ。



①でレストランを探し、②でお店を決める。すると③で料理の画像が出てくるほど、凝ったコンテンツが多くある。

コンビニに設置された情報端末「E-TOWER」から、SDカードへ情報をダウンロード。パソコンなどに接続することで、コンテンツを利用できる。



通信機能を搭載した車載ユニットで、センターからコンテンツを受け取る。配信されるコンテンツの内容は、車載ユニットでの利用に最適化される。

G-BOOKのコンテンツは、すでに運用が始まっている「GAZOO」の仕組みを利用して配信される。コンテンツプロバイダーからGAZOOサーバーに、ユーザー向けのコンテンツが送られる。

G-BOOKのコンテンツ開発に使われるのは「G-BOOK-ML」という専用の言語。サービスの利用者情報を登録したUCS(ユーザーカスタマイズサーバー)を経由することで、コンテンツの内容を各種の情報端末向けに加工する仕組みとなっている。基本的には、どの端末を使っても、同じ情報を共有できる仕組み。

Hondaはナビゲーションにこだわる!

「インターナビ」で VICS情報と インターネットが連携した!

ナビゲーション中心に強化



何より役立つ広域、詳細情報

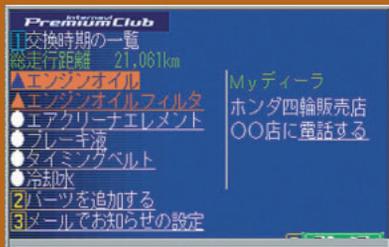
Hondaが、新型アコードからサービス提供を開始した「インターナビ・プレミアムクラブ」。このテレマティクスサービスが提供するコンテンツは、ほぼ交通情報に絞られていて、そのぶん交通情報の詳しくは群を抜く。特に目を引くのが「新・道路交通情報」だ。各都道府県から得たVICS情報を、独自に運営する専用サーバーで加工。都道府県をまたぐ形で、詳細な道路情報を手に入れることができる。これによって、これまでのナビシステムにあった「VICSは渋滞情報などは詳しいが範囲が狭い、反対にGPSだけのカーナビは現在の道路状況が詳しくわからない」という欠点を解消してくれるわけだ。将来的には渋滞予測についても情報を提供する予定で、まさにカーナビゲーションシステムを進化させたサ

ービスとっていいだろう。

心配なのは、長い距離を走っていると、ダウンロードした時点での渋滞情報と、現在の情報が変わってしまうのではないかと。この点だが、車内に用意されたケーブルに携帯電話をつなぎ、インターネットに接続して15分ごとの更新などが可能になるので、道のりの途中で突然事故渋滞が起こっても回避できる仕組みだ。

もうひとつ特徴的なのが、地図DVDの

無償交換サービスだ。初回車検時から3年間、1年ごとに最新版と交換する。もちろん、その地図データとインターネット経由で得る情報を組み合わせることが可能なので、常に最新の道路事情がわかることになる。Hondaは、2004年までに全車種(軽自動車を除く)に、「ウィンドウズCE for Automotive」を搭載した「インターナビ」対応端末を備え、このサービスが利用できるようにする予定だ。



車載ユニットに表示されるのは、シンプルなメニュー。情報の範囲を絞っているため、使い勝手は向上している。メニューは音声での選択も可能だ。

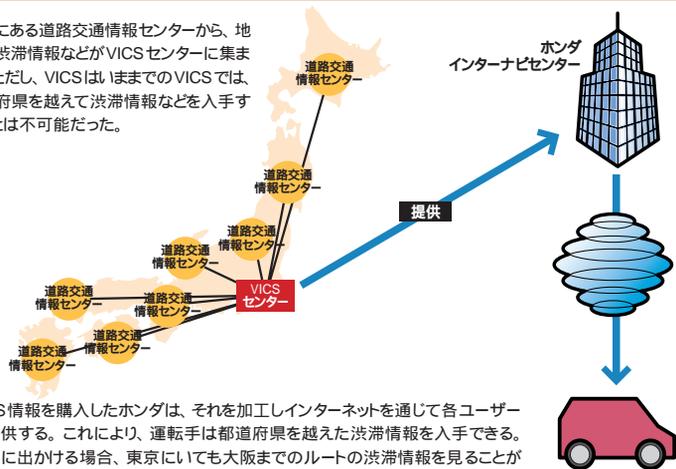


対応車種のハンドルには、操作用のスイッチやマイクが追加されている。複数メーカーの音声認識技術を組み合わせて使用し認識率を高めている。



インターナビ・プレミアムクラブの会員が使える、専用サイト。ドライブ計画やメンテナンス情報を保存、閲覧することができる。

全国にある道路交通情報センターから、地域の渋滞情報などがVICSセンターに集まる。ただし、VICSはこれまでのVICSでは、都道府県を越えて渋滞情報などを入手することは不可能だった。



VICS情報を購入したHondaは、それを加工しインターネットを通じて各ユーザーに提供する。これにより、運転手は都道府県を越えた渋滞情報を見ることが出来る。もちろん、この情報は15分ごとに更新されるので、リアルタイムに渋滞情報をゲットできるのだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp